【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】令和3年8月26日(2021.8.26)

【公表番号】特表2021-517172(P2021-517172A)
【公表日】令和3年7月15日(2021.7.15)
【年通号数】公開・登録公報2021-031
【出願番号】特願2021-502685(P2021-502685)
【国際特許分類】
*Ａ６１Ｋ　45/00　(2006.01)*
*Ａ６１Ｋ　48/00　(2006.01)*
*Ａ６１Ｋ　39/395　(2006.01)*
*Ａ６１Ｋ　31/7088　(2006.01)*
*Ａ６１Ｋ　31/7105　(2006.01)*
*Ａ６１Ｋ　31/713　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　37/04　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　43/00　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　35/00　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　35/02　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　13/10　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　19/08　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　15/00　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　17/00　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　5/14　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　7/00　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　1/04　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　1/02　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　11/04　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　11/00　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　1/00　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　1/18　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　25/00　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　1/16　(2006.01)*
*Ｃ１２Ｎ　15/12　(2006.01)*
*Ｃ１２Ｎ　15/115　(2010.01)*
*Ｃ０７Ｋ　14/705　(2006.01)*
*Ｃ０７Ｋ　16/28　(2006.01)*
*Ｃ１２Ｎ　15/113　(2010.01)*
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　45/00
Ａ６１Ｋ　48/00
Ａ６１Ｋ　39/395　Ｎ
Ａ６１Ｋ　39/395　Ｄ
Ａ６１Ｋ　31/7088
Ａ６１Ｋ　31/7105
Ａ６１Ｋ　31/713
Ａ６１Ｐ　37/04
Ａ６１Ｐ　43/00　１１１
Ａ６１Ｐ　35/00
Ａ６１Ｐ　35/02

Ａ６１Ｐ　13/10
Ａ６１Ｐ　19/08
Ａ６１Ｐ　15/00
Ａ６１Ｐ　17/00
Ａ６１Ｐ　5/14
Ａ６１Ｐ　7/00
Ａ６１Ｐ　1/04
Ａ６１Ｐ　1/02
Ａ６１Ｐ　11/04
Ａ６１Ｐ　11/00
Ａ６１Ｐ　1/00
Ａ６１Ｐ　1/18
Ａ６１Ｐ　25/00
Ａ６１Ｐ　1/16
Ｃ１２Ｎ　15/12　ＺＮＡ
Ｃ１２Ｎ　15/115　Ｚ
Ｃ０７Ｋ　14/705
Ｃ０７Ｋ　16/28
Ｃ１２Ｎ　15/113　１４０Ｚ

【手続補正書】
【提出日】令和2年9月29日(2020.9.29)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
活性成分として、
ロイシンリッチ反復免疫グロブリン様ドメイン及び膜貫通ドメイン含有タンパク質２（ＬＲＩＴ２）タンパク質に結合する物質、又は
ＬＲＩＴ２遺伝子の発現を阻害する物質
を含む免疫賦活薬。
【請求項２】
ＬＲＩＴ２タンパク質に結合する前記物質が、前記ＬＲＩＴ２タンパク質に特異的に結合する化合物、アプタマー、ペプチド又は抗体若しくはその断片である、請求項１に記載の免疫賦活薬。
【請求項３】
前記ＬＲＩＴ２タンパク質が、配列番号１のアミノ酸配列を有する、請求項１又は２に記載の免疫賦活薬。
【請求項４】
前記抗体又はその断片が、モノクローナル抗体、ｓｃＦｖ、Ｆａｂ、Ｆａｂ’及びＦ（ａｂ）’からなる群から選択されるいずれか１つである、請求項２に記載の免疫賦活薬。
【請求項５】
ＬＲＩＴ２遺伝子の発現を阻害する前記物質が、前記ＬＲＩＴ２遺伝子のＤＮＡ又はｍＲＮＡに相補的に結合するアンチセンス核酸、ｓｉＲＮＡ、ｓｈＲＮＡ、ｍｉＲＮＡ又はリボザイムである、請求項１～４のいずれか一項に記載の免疫賦活薬。
【請求項６】
前記ＬＲＩＴ２遺伝子の前記ＤＮＡが、配列番号２のヌクレオチド配列を有する、請求

項５に記載の免疫賦活薬。
【請求項７】
前記ｓｉＲＮＡが、配列番号３～１４のヌクレオチド配列のうちのいずれか１つである、請求項５に記載の免疫賦活薬。
【請求項８】
活性成分として、
ＬＲＩＴ２タンパク質に結合する物質、又は
ＬＲＩＴ２遺伝子の発現を阻害する物質
を含む、がんを予防又は治療するための医薬組成物。
【請求項９】
ＬＲＩＴ２タンパク質に結合する前記物質が、前記ＬＲＩＴ２タンパク質に特異的に結合する化合物、アプタマー、ペプチド又は抗体若しくはその断片である、請求項８に記載の医薬組成物。
【請求項１０】
前記ＬＲＩＴ２タンパク質が、配列番号１のアミノ酸配列を有する、請求項８又は９に記載の医薬組成物。
【請求項１１】
前記抗体又はその断片が、モノクローナル抗体、ｓｃＦｖ、Ｆａｂ、Ｆａｂ’及びＦ（ａｂ）’からなる群から選択されるいずれか１つである、請求項９に記載の医薬組成物。
【請求項１２】
ＬＲＩＴ２遺伝子の発現を阻害する前記物質が、前記ＬＲＩＴ２遺伝子のＤＮＡ又はｍＲＮＡに相補的に結合するアンチセンス核酸、ｓｉＲＮＡ、ｓｈＲＮＡ、ｍｉＲＮＡ又はリボザイムである、請求項８～１１のいずれか一項に記載の医薬組成物。
【請求項１３】
前記ＬＲＩＴ２遺伝子の前記ＤＮＡが、配列番号２のヌクレオチド配列を有する、請求項１２に記載の医薬組成物。
【請求項１４】
前記ｓｉＲＮＡが、配列番号３～１４のヌクレオチド配列のうちのいずれか１つである、請求項１２に記載の医薬組成物。
【請求項１５】
前記がんが、膀胱がん、骨がん、血液のがん、乳がん、黒色腫、甲状腺がん、副甲状腺がん、骨髄がん、直腸がん、咽頭がん、喉頭がん、肺がん、食道がん、膵がん、結腸直腸がん、胃がん、舌がん、皮膚がん、脳腫瘍、子宮がん、頭部又は頸部のがん、胆嚢がん、口腔がん、結腸がん、肛門周囲がん、中枢神経系腫瘍及び肝がんからなる群から選択されるいずれか１つである、請求項８に記載の医薬組成物。
【請求項１６】
がんの予防又は治療用の医薬組成物を製造するための、ＬＲＩＴ２タンパク質に結合する物質、又はＬＲＩＴ２遺伝子の発現を阻害する物質の使用。